

はじめに

この報告書は、2006(平成18)年度の都市計画プロジェクト「次世代に向けた集客力のある都市づくりに関する研究」の初年度版である。

周知のように、北九州市は門司港レトロ地区や小倉城周辺地区などの開発により観光都市としてのポテンシャルが急速な高まりを見せ、昭和63年に340万人弱であった観光客数は、現在、年間約1000万人へと増大している。しかしながら、都市圏人口が漸減するなか、都市活力の維持、増進のためには一層の都市集客力の向上が不可欠であり、このことは次世代に向けた都市政策の大きな柱でもある。北九州市における既存の集客の仕掛けを活かしつつ、人びとの文化や食、買い物、景観、交通など新たな集客要素を付加することによって高質な時間消費が可能となる魅力的な都市へと変貌することが望まれている。それは近隣地域からだけでなく、全国、さらに海外からの多くの来訪者で賑わう交流都市としての姿が好ましい。昨春の新北九州空港の開港を契機として、「集客力」と「交流」の蓄積が、次世代へ向けたひとつの都市戦略といっても決して過言ではない。

以上のような問題意識から当プロジェクトでは、まず第1章で、都市の賑わいと集客力を創出する都市構成要素と条件について若干の考察を行っている。ここでは全国主要都市を対象に、多変量統計解析の手法によって集客関連指標による都市の類型化とその解釈を試みた。また、さらにミクロな分析として全国51都市の賑わいエリアに着目し、賑わい創出に寄与する要素について考察した。次に、第2章では、本研究の共同研究機関である韓国・仁川発展研究院のお二人の研究者に、韓国諸都市における集客都市づくり施策の方向性に関する論文をご寄稿頂いた。さらに、第3章においては、まず、先進的な集客型まちづくりを展開しているアメリカ東海岸および東南アジアの都市調査の結果報告を行い、さらにやや詳細な整理・分析によって集客力向上に必要とされる課題についても若干の考察を行っている。

今後は、国内外を対象とした一層のフィールドワークを踏まえ、北九州市の賑わいづくり、さらには集客力向上のためのより具体的、実践的な課題抽出を主眼として、より精緻な分析に取り組みたいと思っている。

なお、本報告書の内容は、当実行委員会の責任において取りまとめたものであり、本大学あるいは仁川発展研究院の見解を代表するものではない。各位のさらなるご指導、ご鞭撻をお願い申し上げたい。

北九州市立大学都市政策研究所
都市計画プロジェクト実行委員会
実行委員(同研究所助教授) 神山和久